

日本共産党の竹田えつ子です

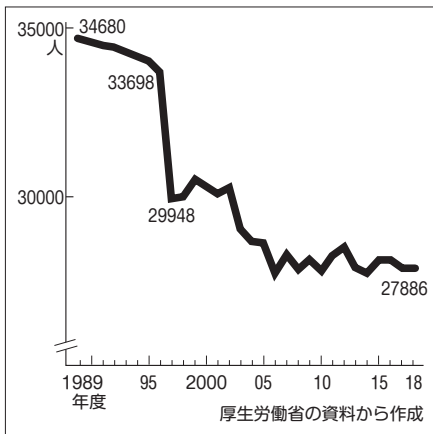
こんにちはニュース 議会報告

No.151 2021年9月第4週



くらしのご相談事
いつでもお声かけ
ください。

新型コロナ対策



(しんぶん赤旗に日曜版9月19日付けより)

大幅に減らされた保健所職員
各年度末

自公政権のもと、保健所は全国で852か所から469か所に
業務逼迫の根本に ことがありません。コロナは、自公政権のもとで ナから住民の命を守る保健所を減らしてきた 為に、保健所の人員を

保健所は過労死寸前

9月15日現在、鴻巣市では1158人の感染が確認されています。徐々にコロナの陽性者が減少してきていると言われています

奈・桶川・北本)の保健師が週1日ずつ支援に入っていますが、まだまだ大変な状況なようです。
越谷市保健所職員が、「過労死寸前です」と実名で名乗り出たことが報道されました。聞きしに勝る大変な状況が伝わってきます。

政権交代こそ命を守る保障

臨時国会も開かず、総裁選に明け暮れる自民党の本質が明らかになっています。コロナ

増やし体制を強化することが急務ではないでしょうか。そのために国はしっかりと財政的支援を行うことが求められています。

9月17日現在の鴻巣市の新型コロナワクチン接種状況 (12歳以上)

対象者数	108,595人	
1回目接種	64,902人	59.8%
2回目接種	46,712人	43.0%

感染症対策の基本は、徹底した検査の実施と感染者の隔離・保護で感染源を断つことです。感染症対策は県の所管事務ですが、コロナに感染しても入院

竹田えつ子の一般質問 「なによりいのち」PCR検査と保健所と連携した対応を

の爆発的な感染拡大、与野党が結束して対応すべきと、日本共産党をはじめ野党が臨時国会を開催することを求めてきましたが、これを拒否し続けたのが自

民党です。国民の命をどう考えているのでしょうか？
政権交代こそ命を守る保障です。市民と野党の共闘で政治を変えていきましょう！

9月議会で竹田えつ子が提案書となつて「米価暴落に対する緊急対策を求める意見書」を出しました。(意見書裏面掲載)

できず自宅療養を余儀なくされている方が鴻巣市でも多数いると思います。絶対命を落とすことがあってはならないと考え、市としても住民の命を守る為に尽力してほしいと願います。保健所との連携について一般質問で取り上げます。「なによりいのち」です。



「米作って飯食えね」の声聞け



「このままでは米作りは続けられなくなる」稲刈りの時期を迎える農村でいま強い危機感が広がっています。この事態を打開し、農家が安心して米作りに励めるようにすることは政治の重大な責任です。

日本共産党の竹田えつ子が提出者、菅野博子・加藤久子・諏訪三津枝議員が賛成者となり、9月24日(金)9月議会最終日に議員提出議案として上程、審議します。農家の声をしっかり届けていきます。

米価暴落に対する緊急対策を求める意見書

昨年来、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、外食を中心に米需要が大きく減少し、2020年産の米価は下落しました。コロナ危機は今年に入っても引き、需要は引き続き減少しています。農林水産省が公表した6月末の民間在庫量は219万トンと、適正在庫とされる180万トンを大幅に上回っています。

今年、収穫期を迎えている産地では、「去年の米が倉庫にいっぱい残っており、新米を入れる場所がない」という事態まで生まれています。農業協同組合（農協）が生産者に渡す概算金が、埼玉県では一俵あたり8300円で昨年より約5000円の下落です。米生産者はこの二十数年、米価の下落・低迷に苦しめられてきました。市場まかせの政府の米政策のもとで、かつて一俵平均で2万2000円を超えていたのが、今や1万円前後です。他方、農水省の調査では、米一俵を生産するのにかかる直近（2019年産米）の経費は、平均で1万5000円を超えています。米農家の大多数は赤字生産を強いられ、生産費が平均より高い中小規模や中山間地域の農家は、米代金では家族労働費どころか農機具・肥料などの物財費さえ償えない事態です。

よって本市議会は、下記の事項が速やかに実現されることを強く要望します。

記

- 1 過剰在庫を政府が買い取り、市場から隔離すること
- 2 買い取った米を生活困窮・学生・子ども食堂などへ大規模に供給すること
- 3 転作補助金の大幅拡充をすること
- 4 農業者戸別所得補償制度を復活すること

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する